

授業科目(ナンバリング)	相談援助演習ⅢB (DA311)			担当教員	野田 健・梅野 潤子 星野 秀治・丸山 貴志		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
ディプロマポリシーに則り、ホスピタリティの精神に基づいて人々の自己実現を支援するには、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を様々な相談援助事例を通じて実践的に習得する必要がある。そこで本授業は、変動する地域社会における福祉の問題について具体的に対応できるソーシャルワーカーとしての技能を、各専門領域の事例を検討していくことによって高めていくことをねらいとする。							⑤⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した事例において、専門的援助技術を使用できる。				グループディスカッション等 課題レポート	10%	10%
情報収集、分析力	相談援助事例における具体的な課題について、総合的かつ包括的な援助の方針を考えることができる。				グループディスカッション等 課題レポート	10%	10%
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	高い意欲をもって、グループディスカッションや発表、実技において役割を見出し、貢献的に遂行することができる。				グループディスカッション等 課題レポート	30%	10%
多様性理解力	具体的な事例を通して、抑圧・差別等を批判的に捉え、多様性を重んじた行動・態度を示すことができる。				グループディスカッション等 課題レポート	10%	10%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への参加において、遅刻は厳禁である。</p> <p>「評価手段・方法」のグループディスカッション等(60%)とは、グループディスカッションや発表、実技(ロールプレイ等)の活動を指す。有意義な活動に貢献できたかを「ホスピタリティを構成する能力」の4項目の到達目標に沿って評価する。それぞれの活動の評価に関するフィードバックは授業内やポートフォリオにて随時行っていく。</p> <p>課題レポート(40%)では、福祉の課題と専門知識、専門的援助技術に関する正しい理解に基づいて、理論的かつ明快に自分の考えを説明できたかを評価する。文字数不足及び誤字、脱字は減点の対象とする。また、課題レポートを未提出の場合は単位認定を行わない。この評価に関するフィードバックは授業内やポートフォリオにて随時行っていく。</p>							
授業の概要							
<p>社会問題を基盤とした相談援助事例、対象者別にみた相談援助事例、視覚教材等を活用しながら、課題への理解を深める。グループディスカッション等を通して、総合的かつ包括的な援助の方針を考える。具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導(ロールプレイ等)により、専門的援助技術への理解を深め実技演習を行う。</p> <p>なお、この授業は社会福祉士を目指し、「相談援助実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB」「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」を履修ないし単位取得した者を対象としたものである。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士相談援助演習』 中央法規(2015)</p> <p>参考書：特に指定しない</p> <p>指定図書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士相談援助演習』 中央法規(2015)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>グループディスカッション等を行うので教科書の該当箇所及び事例を事前に読んでおくこと。</p> <p>グループのメンバーを尊重し合いながら、積極的に発言すること、調べること、書くこと。</p> <p>新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組、映画等、広く社会の出来事に関心をもつことを期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	オリエンテーション、授業の進め方、評価等の確認を行う。	予) シラバスを読んてくる。 復) 演習参加の意義と目的等を確認し、専門職になる意気込みをレポート提出。
2	社会問題を基盤とした相談援助演習(1)	社会的排除に関する相談援助について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第5章22熟読。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
3	社会問題を基盤とした相談援助演習(2)	ミクロからマクロレベル実践に焦点を当てた相談援助について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第5章23熟読。 復) 授業の振り返りレポート提出。
4	社会問題を基盤とした相談援助演習(3)	病院からの退院に関する相談援助について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第5章27熟読。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
5	社会問題を基盤とした相談援助演習(4)	災害時の相談援助について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第5章32熟読。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
6	対象者別にみた相談援助演習(1)	ホームレスへの支援のあり方について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第6章35熟読。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
7	対象者別にみた相談援助演習(2)	難病患者への支援のあり方について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第6章36熟読。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
8	対象者別にみた相談援助演習(3)	アルコール依存者への支援のあり方について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第6章43熟読。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
9	対象者別にみた相談援助演習(4)	非行少年への支援のあり方について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第6章44熟読。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
10	対象者別にみた相談援助演習(5)	犯罪者への支援のあり方について、グループディスカッション等を通して学ぶ。	予) 教科書第6章45熟読。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
11	事例カンファレンス (1)	実習体験を振り返り、グループ内で印象に残っている相談援助事例を共有しあい、次回作成する事例のテーマを決める。	予) 事例を考えてくる。 復) 授業の振り返りをレポート提出。次回作成する事例を考える。
12	事例カンファレンス (2)	グループで1つの相談援助事例を作成する。	予) 事例を考えてくる。 復) 授業の振り返りをレポート提出。事例の内容を深める。
13	事例カンファレンス (3)	各グループで作成した事例を交換し、各グループでその事例についての支援のあり方を検討する(アセスメント、プランニング)。	予) 事例を考えてくる。 復) 授業の振り返りをレポート提出。支援計画を立てる。
14	事例カンファレンス (4)	各グループで事例検討会議を行い、支援計画を立て、発表する。	予) 事例検討の準備をする。 復) 授業の振り返りをレポート提出。
15	まとめ	受講生自身による振り返りとまとめを行う。 (期限までに課題レポートを作成し提出する: 詳細については授業時に指定する)	予) 1年間で学んだことについて整理する。 復) 演習の全体を振り返り、学び得た成果をまとめる。